

## しあわせ家族計画 字幕

### Chapter6: Challenge announced

レポーター : それでは、宿題<sup>しゅくだい</sup>の発表<sup>はつぴょう</sup>です  
先生<sup>せんせい</sup>、どうぞ

レポーター : じゃあ、早速<sup>さつそく</sup>先生<sup>せんせい</sup>に、模範演技<sup>もはんえんぎ</sup>を見せていただきますよう  
先生<sup>せんせい</sup>、よろしく

レポーター : さあ、お父さん<sup>とう</sup>にはこの曲<sup>きょく</sup>、「ホーム・スイート・ホーム」を、一週間<sup>いっしゅうかん</sup>でマスターしてもらいます

まあ、多少<sup>たしょう</sup>のテンポ<sup>はや</sup>の速い遅い<sup>おそ</sup>はオーケー<sup>1</sup>  
譜面<sup>ふめん</sup>どおり弾<sup>ひ</sup>けたら合格<sup>ごうかく</sup>

あっ、それでお父さん<sup>とう</sup>、お父さん<sup>とう</sup>  
ピアノはどうですか、ね

富士夫<sup>ふじお</sup> : さわった事<sup>こと</sup>もありませんよ

レポーター : さわった事<sup>こと</sup>はないけど、見た事<sup>みこと</sup>はあるでしょう  
お父さん<sup>とう</sup>には、生まれ<sup>う</sup>れて初めて<sup>はじ</sup>、ピアノにさわってもらいましょう  
どうぞ

富士夫<sup>ふじお</sup> : えっ、ちょっ、い、今<sup>いま</sup>ですか

ピアニスト : はい、楽譜<sup>がくふ</sup>です

レポーター : はい、楽譜<sup>がくふ</sup>です

お父さん<sup>とう</sup>

大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>ですか

回<sup>まわ</sup>して回<sup>まわ</sup>して

止めるな、止めんな<sup>3</sup>

はい、どうじょ<sup>4</sup>

レポーター : これは難関<sup>なんかん</sup>だ  
以上<sup>いじょう</sup><sup>5</sup>、あばよ<sup>6</sup>

女性<sup>じょせい</sup>の声<sup>こえ</sup> : がんばれ、6秒<sup>びよう</sup>

やっと調子<sup>ちょうし</sup>が出てきたお父さん<sup>とう</sup>

でも、なかなか10秒<sup>びよう</sup>の壁<sup>かべ</sup>が破れ<sup>やぶ</sup>ません<sup>7</sup>

広瀬<sup>ひろせ</sup> : どうだあ、俺<sup>おれ</sup>なら300万<sup>まん</sup>いただきだ<sup>8</sup>

バー店員<sup>てんいん</sup> : しょうがないわね<sup>9</sup>、あんたも  
風邪<sup>かぜ</sup>引<sup>ひ</sup>いちゃうわよ  
ねえ、ちょっと<sup>10</sup>

由太郎<sup>よし たろう</sup> : 最低<sup>さいてい</sup>

優子<sup>ゆう こ</sup> : 分<sup>わ</sup>かってる

あんた、絶対<sup>ぜったい</sup>責任<sup>せきにん</sup>とってもらうからね<sup>11</sup>

あっ、もう見込み<sup>みこ</sup>無し<sup>なし</sup><sup>12</sup>

こうなったらさ<sup>13</sup>、もう誰<sup>だれ</sup>かに徹<sup>てつ</sup>底的<sup>ていてき</sup>にしごいてもらわなきゃだめね<sup>14</sup>

そうだ、お母<sup>かあ</sup>さんは

大体<sup>だいたい</sup>これ、このピアノ、お母<sup>かあ</sup>さんの嫁<sup>よめ</sup>入り道具<sup>どうぐ</sup><sup>15</sup>だったんでしょう

由太郎<sup>よし たろう</sup> : おばあちゃん

優子<sup>ゆう こ</sup> : 弾<sup>ひ</sup>いてよ

恒子<sup>つね こ</sup> : あたしはこんな物<sup>もの</sup>があるのも忘<sup>わす</sup>れてたから

優子<sup>ゆう こ</sup> : 大<sup>だい</sup>丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>

恒子<sup>つね こ</sup> : よし

弾<sup>ひ</sup>きますね

やってみるかね、じゃ

優子<sup>ゆう こ</sup> : どうしたの

恒子<sup>つね こ</sup> : こっから先<sup>さき</sup><sup>16</sup> ちょっと難<sup>むずか</sup>しいから、挫<sup>ざ</sup>折<sup>せつ</sup>しちゃった

優子<sup>ゆう こ</sup> : 他<sup>ほか</sup>には

あとは

恒子<sup>つね こ</sup> : これだけ

ええっ、て2曲<sup>きよく</sup>も弾<sup>ひ</sup>けるんだからいいじゃないの

これ歌<sup>うた</sup>ってみて

優子<sup>ゆう こ</sup> : はい、オリーブ・ハウス、浦<sup>うら</sup>志<sup>し</sup>満<sup>ま</sup>です

ええっ

医者<sup>い しゃ</sup> : 今<sup>いま</sup>、落<sup>お</sup>ち着<sup>つ</sup>いて寝<sup>ね</sup>てますから

ちょっといいですか

血<sup>けつ</sup>圧<sup>あつ</sup>がだいぶ高<sup>たか</sup>いです

しばらくは、検<sup>けん</sup>査<sup>さ</sup>入<sup>に</sup>院<sup>ゆういん</sup>して様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>見<sup>み</sup>た方<sup>ほう</sup>がいいですね

恒子<sup>つね こ</sup> : まあまあ、この度<sup>たび</sup>は<sup>17</sup>

ほんとにどうもご迷惑をお掛けいたしました 18

バー店員：いいえ

ちょっとびっくりしましたけど

恒子：もう、だいぶ落ち着いて眠っておりますので

バー店員：そうですか

恒子：うちのじいさんはねえ、いつも、「俺は、絶対に自分のうちでは死なん 19  
好きな女の所で酒でも飲みながらコロっていきたい 20」って言ってたんです  
けど

本当にそうなりかけましたね 21

バー店員：いや、外に愛人を作っても 22、誰にも文句を言わせない甲斐性のある粋な遊  
び人、そんなのがあこがれだったみたいですよ

優子：愛人

バー店員：優子さんね

お会いするのは初めてだけど、あたし、あなたの事、全部知っているのよ

優子：えええ

どうしてですか

バー店員：義造さん、店に来ても話すのは家族の事ばかり

だったら 23家で飲めばいいのに、男ってバカよね

自分の家族にも見栄を張りたいたいんだから

恒子：ほんとに男ってしょうがないですね